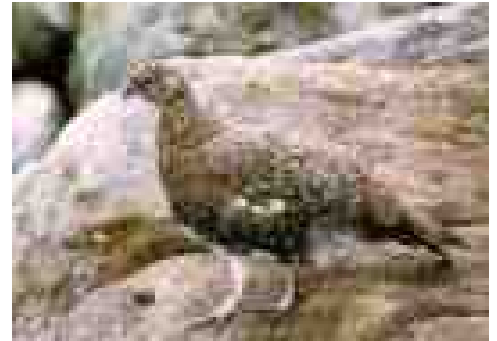


ライチョウの概要

キジ目 ライチョウ科

(学名 *Lagopus mutus japonicus*)

絶滅危惧 IB 類 (環境省レッドリスト 2012)



. 現状

1. 分布及び個体数

- ・ 現在の生息分布域は北アルプス、南アルプス及び頸城山塊等に限定され、南北に大きく分断されている。
- ・ 1980年代には約3千羽と推定された(信州大学)が、その後の調査に基づき、現在では2,000羽以下と推定されている(信州大学)。

2. 形態及び生物学的特性

- ・ 成熟個体で全長37cm。
- ・ メスは6月にハイマツなどの根元などに窪みを作って巣とし、6卵ほど産卵する。
- ・ 主な食物は植物の芽、種子など植物質。

3. 好適な生息地

- ・ 高山の標高2,400m以上のハイマツ林帯や岩石帯に生息

4. 生息を脅かす要因

- ・ 登山者や観光客による生息環境の攪乱
- ・ キツネ、カラス等の捕食者となり得る種の分布拡大
- ・ 山岳環境汚染等に起因する細菌・ウイルス等の感染のおそれ
- ・ ニホンジカ等の本種の生息域に従来生息していなかった野生動物の分布拡大による生息環境の劣化

. これまでの保護の取り組み

- ・ 種の保存法に基づく国内希少野生動植物種(平成5年)。
- ・ 国指定の特別天然記念物(大正12年)。
- ・ 生息地の多くが国立公園(中部山岳国立公園、南アルプス国立公園等)に指定。
- ・ 恩賜上野動物園、多摩動物公園、富山市ファミリーパーク、いしかわ動物園、茶臼山動物園において、近縁種のスバルバルライチョウによる飼育・繁殖の知見の集積(生息域外保全)が行われている。